

「ぬまた未来創造学」の充実に向けて 群馬県沼田市教育委員会学校教育課

2025. 10. 1

1. 「ぬまた未来創造学」創設の背景

新型コロナウイルス感染症は、子供たちの生活や教育に対して様々な影響を及ぼし、全国的な臨時休業が実施されたほか、その後の学校行事の中止や変更、授業内容や部活動の制限、保護者や地域住民が参画する体験的な学びなどが大きく変化しました。各学校園においては様々な工夫が続けられたが、総合的な学習の時間や生活科では人との出会いや体験の機会を設けることが難しく、探究的な学習を主体的・協働的に取り組む学びは低迷していた現状もあった。

地域と連携・協働する探究的かつ体験的な学びの縮小は、学習習慣や非認知能力の向上に悪影響を及ぼす恐れがあることから、令和5年度より、本市では、全ての市立幼稚園、小・中学校において、ふるさと沼田の特色を生かしたふるさと学習「ぬまた未来創造学」を実践してこととした。

この学びは2つの問いから始まった。1つは、多様な価値観が存在する現代社会において、正解が1つではない課題に対し、他者と協働して取り組む力や、新しい時代を切り拓く資質・能力を育成することが必要ではないかというものである。もう1つは、群馬県沼田市という中山間地では、地域の未来を担う人材の育成が必要不可欠であり、学校教育にはそれをねらいとする学びが必要なのではないかというものである。

この学びの目的は、子供たちを沼田に残すことそのものではなく、将来を見越した「たくましいひとづくり」である。ただし、この学びの実践を通して、育ったまちに対する愛着や誇りをもって地域社会を創造しながら充実した生活を営む人、市外にいてもふるさと沼田に関わりながら生きていく人に育てたいという切なる願いがある。

2. 「ぬまた未来創造学」とは

「ぬまた未来創造学」は、地域を愛し親しむ心、地域を誇りに思う心を育むために、自分が生まれ育ったふるさと沼田を知り、よさを学ぶふるさと学習である。

教科等で学んだことや学校生活で身に付けた力をいかしながら、「総合的な学習の時間」などに地域をフィールドとし、地域と協働して、ふるさと沼田の未来と自分の将来・生き方について考えるとともに、学校と地域が互いにパートナーとなる「コミュニティ・スクール」の機能をいかし、郷土愛を育てていく。

森林文化都市を宣言する本市は、自然豊かな環境と歴史的な魅力をもっている。ふるさと沼田の自然、歴史、産業、人情、まちづくりの様子などを、地域にある資源と地域の人にふれながら体験的かつ探究的に学ぶことで、子供たちの自己有用感を高め、生きる力を育む教育を推進する。

〈「ぬまた未来創造学」の目指す人間像〉

4つの視点【親しむ・考える・行動する・生きる】

○沼田に誇りと愛着をもち、ふるさと沼田の資源をいかし、継承・発展させようとする意欲や態度を身に付けた人間

○自律し、社会の変化に対応しながら、ふるさと沼田の新たな価値を創造することができる人間

○自分らしい生き方を実現するとともに、将来にわたり、ふるさと沼田を思い、意思疎通を図り、様々な場面で協働し、支えていくことができる人間

○ふるさと沼田に根ざして、共育の視点で考え行動できる人間

(※共育…子供も大人も、学校も地域も、共に学び成長する)

3. 「ぬまた未来創造学」の内容

小学校では主として生活科、総合的な学習の時間、中学校では主として総合的な学習の時間を中心に実践する。

総合的な学習の時間では自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目標として学校ごとに内容を設定する。一方、「ぬまた未来創造学」では、地域理解、社会参画、人間関係形成、自律的活動に関する4つの資質・能力を育み、ふるさと沼田の未来を担う人材を育成することを目標として、児童生徒にとって身近な「ひと・もの・こと」を学習対象とすることで当事者意識をもちながら取り組むことができ、知っているつもりでも知らないことが多いという気づきを学習意欲の喚起につなげたい。

就学前の幼稚園などから中学校卒業までの

10年間以上に渡り、段階的に学習内容の広がりや深まりをもたせ、より多面的・多角的に捉える学習活動を実施することで、目指す人間像の育成を図る。このような長期的な教育課程の計画と実施が可能なのは、本市が教育に熱く、郷土愛に溢れる人間性によるものである。

4. 「ぬまた未来創造学」充実のカギ

(1) 沼田を愛し、詳しい児童生徒

様々な実践に共通して見られるのは、児童生徒は沼田が好きで詳しいということである。例えば、市制施行70周年記念事業かつ森林文化都市アクションプランの一環で始めた「たんばら・森林の学校」では、市内の全小学4年生が参加し、ブナ林が原生林に近い状態で保存されている玉原高原をフィールドとする散策や幼木移植作業等を行っているが、市民にとってはありふれた地域の魅力を体全体で実感することで、動植物を見分けたり、ブナの特徴を具体的に説明したりすることができるようになり、自然やふるさとを守りたいといった考えをもつにいたっている。

(2) 「ぬまた未来創造学」に関わる地域住民

人口減少や観光振興の問題に関わる本市の課題に対する疑問に対しては、「市長とふらっと〜ク」や市役所職員が直接応答し説明を行った。棚田の保全活動や果樹栽培などについては、各学校において地域に住む様々な職業の大人にお世話になり、学びを充実させており、「教科書には書いていないことが多く、自分たちだけでは調べきれないことが分かった」「直接話を聞くことで、沼田を支える人の思いを知ることができた」といった感想を述べている。多くの市民が「ぬまた未来創造学」の意義と内容を理解し、学習活動に協力的に参画することへつながってきている。

(3) 児童生徒と大人との協働

中学校では、学区内にある観光施設の活性化をテーマとした取組が実践された。観光客を呼び込むためには広報活動が重要であると考え、市役所観光交流課の支援を受けながらポスターやパンフレットを作成し、掲示・配布につながった。

お世話になっている地域に対し、生徒自身が貢献したいという思いを真摯に受け止める大人がいて、連携・協働して町づくりが行わ

れることを実感する学びが展開されている。

5. 今後の方向性

(1) 「ぬまた未来創造学」の時間を楽しみにする児童生徒

群馬大学共同教育学部附属中学校では、「未来創造科」の授業を楽しみにし、教科の学習においても「これは『未来創造科』で使えるね」などの発言が随時間かれるという。

本市においてもコミュニティ・スクールの機能をいかし、「1年間で100人の大人に出会う学び」の実現を推奨しており、地域に住む人へのインタビューなどを含め、「ぬまた未来創造学」自体が児童生徒の関心事となっていくことを期待する。

(2) 教科学習との関連

児童生徒が学校の枠を超えて社会と関わり、社会を生き抜く力を育むことを目指す「開かれた教育課程」の実現が求められていることから、指導者はもちろんのこと、児童生徒自身が「ぬまた未来創造学」と教科学習とのつながりを見付けるようにしていきたい。そして、教師主導ではなく、児童生徒が主体的に学習を進められるような支援体制に努めていきたい。

(3) 「ひとづくり・まちづくり」への意識

全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙における「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という問いに対し、多くの児童生徒が肯定的に回答している。

本市の教育振興基本計画で基本理念に掲げる「未来を担うたくましいひとづくり・まちづくり」を目指し、「ぬまた未来創造学」の充実を図りたい。

6. まとめ

群馬県教育委員会では、「群馬県教育ビジョン」において、「人は誰しも、生まれついて自分と社会をよりよくしようと願う意志や原動力をもっている」とし、「自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す」自律した学習者の育成を目指している。

本市においても、地域の人々の切実な問題意識と、児童生徒による主体的な実践とが重なり合い、地域の課題解決に取り組む中で、地域を愛し親しむ心、地域を誇りに思う心を育んでいく、ふるさと学習「ぬまた未来創造学」を実践していきたい。